

# 黒水遺跡拝香地区

－県道円座中津線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2008

大分県教育庁埋蔵文化財センター

## 序 文

本書は県教育委員会が大分県中津土木事務所の依頼を受けて平成17年度に実施した県道円座中津線道路改良工事に伴う黒水遺跡拝香地区の発掘調査報告書です。

黒水遺跡拝香地区は中津市大字加来拝香の段丘縁辺部に位置する中世の遺跡です。遺跡の北側には国道10号線中津バイパスの調査で県内初の縄文時代の陥穴遺構を検出した黒水遺跡三角地区や、古墳時代の集落遺跡である大坪遺跡、中世の中津市指定史跡の大幡城跡が所在しています。

今回調査した黒水遺跡拝香地区では中世の溝状遺構が約70メートル以上確認され、南側に展開している館跡の北側を画する溝と考えられます。この周辺一体の台地には大規模ないくつかの館跡が展開していることが推測されます。

本書が、埋蔵文化財の保護に向けて、また地域の先人の生活を理解する資料として、さらには学術研究の一助として活用されれば幸いです。

終わりに、長期間にわたる発掘調査に御支援御協力をいただきました関係各位に衷心から感謝申し上げます。

平成20年3月25日

大分県教育庁埋蔵文化財センター

所 長 福 田 快 次

# 例 言

- 1 本書は平成17年度に実施した、県道円座中津線道路改良工事に伴う黒水遺跡拝香地区の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は大分県土木建築部中津土木事務所の依頼を受けて大分県教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査にあたり中津市教育委員会、県土木建築部中津土木事務所、地元関係各位の協力を得た。
- 4 発掘調査出土遺物の整理は大分県教育庁埋蔵文化財センターで行った。
- 5 発掘調査出土遺物、図面、写真等は、大分県教育庁埋蔵文化財センターで保管している。
- 6 発掘調査報告書作成にあたり、中津市教育委員会の花崎徹氏、当センターの吉田寛氏に教示を頂いた。
- 7 本書の執筆・編集は栗田勝弘が担当した。

# 目 次

## 第1章 調査の経過と概要

- 第1節 調査に至る経過と調査方法…………… 1
- 第2節 調査団の構成…………… 1

## 第2章 遺跡の立地と環境

- 第1節 地理的・歴史的環境…………… 2

## 第3章 調査の成果

- 第1節 第1～3調査区の検出遺構…………… 5
- 第2節 第1～3調査区の出土遺物…………… 5

## 第4章 総括…………… 7

# 第1章 調査の経過と概要

## 第1節 調査に至る経過と調査方法

今回調査した黒水遺跡は県道円座中津線道路改良工事に伴うものである。調査対象地は犬丸川左岸の台地の縁辺に当たる。黒水遺跡拝香地区の北側は、黒水遺跡三角地区であり、昭和60～61年度の国道10号線中津バイパスの調査で県内初の縄文時代の陥穴遺構を25基検出し、中世の有力者の居住区も確認されている。また、黒水遺跡に隣接して、中世の中津市指定史跡の大幡城跡が所在している。

今回の黒水遺跡拝香地区の発掘調査は円座中津線の道路改良工事に伴い平成17年11月10日～平成17年12月9日の1ヶ月を調査期間として実施した。

この調査区の対象区域は既に試掘調査が実施されており、現県道の円座中津線の南側の拡幅幅に沿って、東西に長く約5m×100mの500mが本調査対象区となっていた。

発掘調査は拡張幅の路線内を重機で表土を除去し、遺構や遺物の確認された面を発掘調査の対象とした。調査区は現在も使用されている畑の進入路を破壊しないように、第1調査区～第3調査区に区分して実施した。

発掘調査の結果、検出した遺構や遺物は少なかったが、長い調査区の略全面に長さ約74mの中世の溝状遺構が確認された。この遺構は、館の北を画する溝の一部と推察された。

## 第2節 調査団の構成

平成17年度に実施した黒水遺跡の調査組織は以下のとおりである。

調査主体 大分県教育委員会

調査組織 渋谷忠章 大分県教育庁埋蔵文化財センター所長

益永孝則 大分県教育庁埋蔵文化財センター次長兼総務課長

栗田勝弘 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査第一課長（調査担当）

河原英明 大分県教育庁埋蔵文化財センター調査第一課嘱託（調査担当）



黒水遺跡の空中写真（中央部）



## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的・歴史的環境

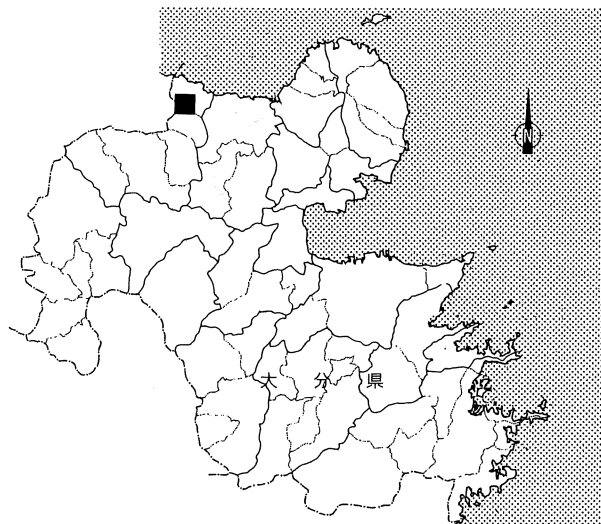
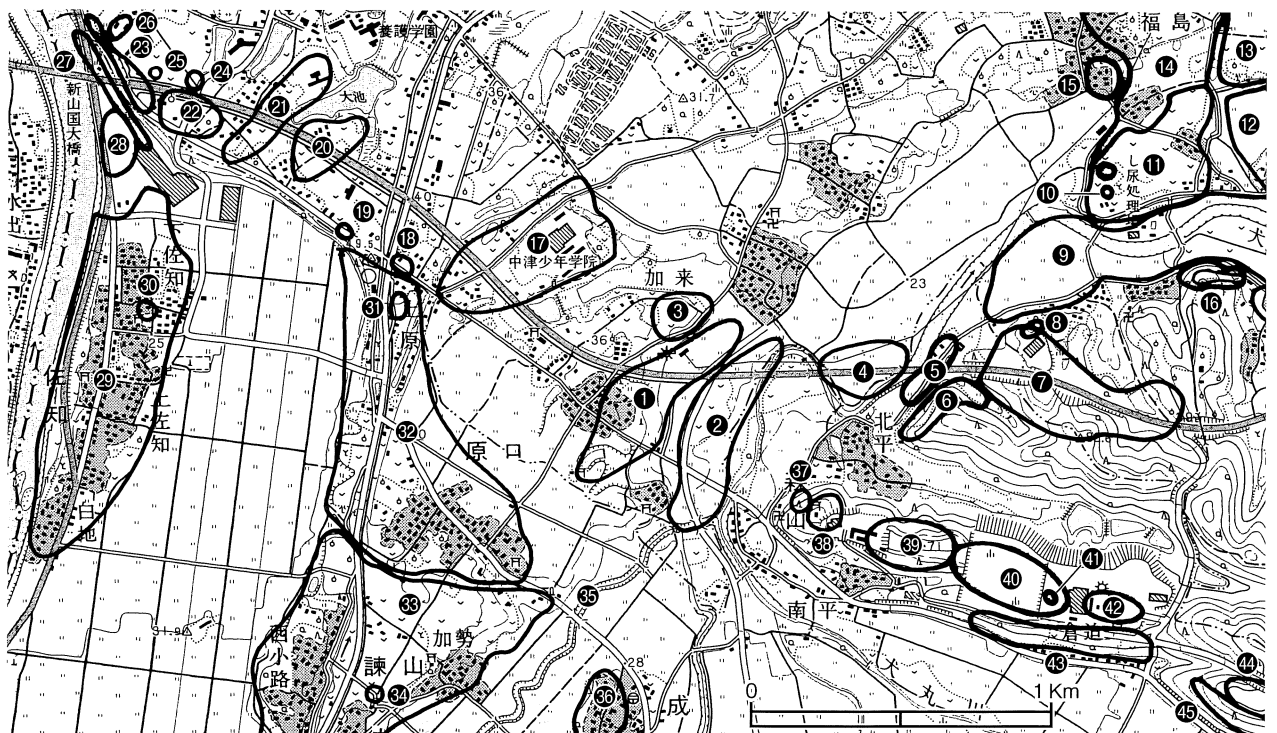
黒水遺跡拝香地区は中津市大字加来字拝香に所在している。今回の発掘調査の結果、黒水遺跡拝香地区では、中世の館の一面をしめる溝状遺構が約74m 検出され、この周辺には幾つかの館跡が遺存していることが推察できた。

中津市は平成17年3月に下毛郡の三光村、本耶馬溪町、耶馬溪町、山国町の4町村と合併した。黒水遺跡の所在する丘陵は、旧三光村との境付近に位置し、南方の八面山からの派生丘陵の下毛原台地の一部に当たる。

黒水遺跡周辺の遺跡を見ると、旧石器時代では北東部約0.8kmの樋多田遺跡や2.5kmの才木遺跡で少数な後期旧石器時代の石器が出土している。

縄文時代では、黒水遺跡三角地区で国道10号線中津バイパスの調査に伴い、県内初の縄文時代早期～前期の陥穴遺構を25基検出し注目された。また、縄文後期では北東約2kmに竪穴住居内に埋葬人骨が検出された県指定史跡の棒垣遺跡、棒垣貝塚、入垣貝塚等は稀有な重要遺跡の一つである。

弥生時代の遺跡としては黒水遺跡の東約1kmに森山遺跡、北東約2kmに福島遺跡等がある。福島遺跡では弥生中期の溝が直線的に160mも確認され、大規模な集落跡と推察されている。



1 黒水遺跡	縄文・中世・近世	24 柳ヶ池遺跡	弥生・古墳
2 大坪遺跡	古墳	25 上人塚古墳	古墳
3 大幡城跡	中世 市指定	26 幣旗邸古墳群	古墳
4 樋多田遺跡	弥生・古墳	27 上ノ原横穴墓群	古墳
5 権現島遺跡	縄文・中世	28 佐知久保畑遺跡	弥生
6 北平横穴墓群	古墳	29 佐知遺跡	縄文
7 森山遺跡	弥生	30 佐知柿木遺跡	弥生・古墳
8 宇土横穴墓群	古墳	31 耳とり池	奈良
9 犬丸川流域遺跡	弥生・古墳	32 原口遺跡	弥生・古墳
10 入垣貝塚	縄文	33 諫山遺跡	弥生・古墳
11 棒垣遺跡	縄文 県指定	34 諫山糸永遺跡	弥生・古墳
12 城土遺跡	中世	35 原口キリシタン墓	近世 旧村指定
13 三保遺跡	弥生・古墳	36 田島崎城跡	中世
14 福島遺跡	縄文～中世	37 洗浜横穴墓群	古墳
15 福島城跡	中世	38 北平城跡	中世
16 岩井崎横穴墓群	古墳 市指定	39 美濃尾遺跡	中世
17 清水郎西遺跡	古墳	40 倉迫平遺跡	古墳・中世
18 清次郎原遺跡	弥生	41 倉迫平1号墳	古墳
19 上ノ原稲荷塚遺跡	古墳	42 倉迫二ツ塚古墳	古墳
20 大池南遺跡	弥生	43 野辺田横穴墓群	古墳
21 六畝町遺跡	弥生・古墳	44 三ツ塚古墳群	古墳
22 上ノ原平原遺跡	弥生・古墳	45 天神原横穴墓群	古墳
23 勘助野地遺跡	縄文・古墳		

第1図 黒水遺跡と周辺の主要遺跡 (1/25,000)

古墳時代の遺跡としては、黒水遺跡の東約1kmに北平横穴墓群、北西約2kmの山国川右岸の古墳群が著名である。壺形埴輪を出土した方形墳の勸助野地遺跡、円墳の幣旗邸古墳群、5世紀後半～7世紀前半の上ノ原横穴墓群約80基が位置している。

中世の遺跡としては、13世紀後半～14世紀後半の溝状遺構、土坑墓や火葬墓、井戸等が検出された黒水遺跡があり、『鎌倉遺文』に収められた「豊前黒水文書」の黒水名の一部に相当するであろう。これに隣接して中津市指定史跡の大幡城跡が所在している。大幡城は大友氏の下毛郡の拠点であった。また、南1.5kmには成恒城跡、南東約2kmには岡崎城跡が位置している。

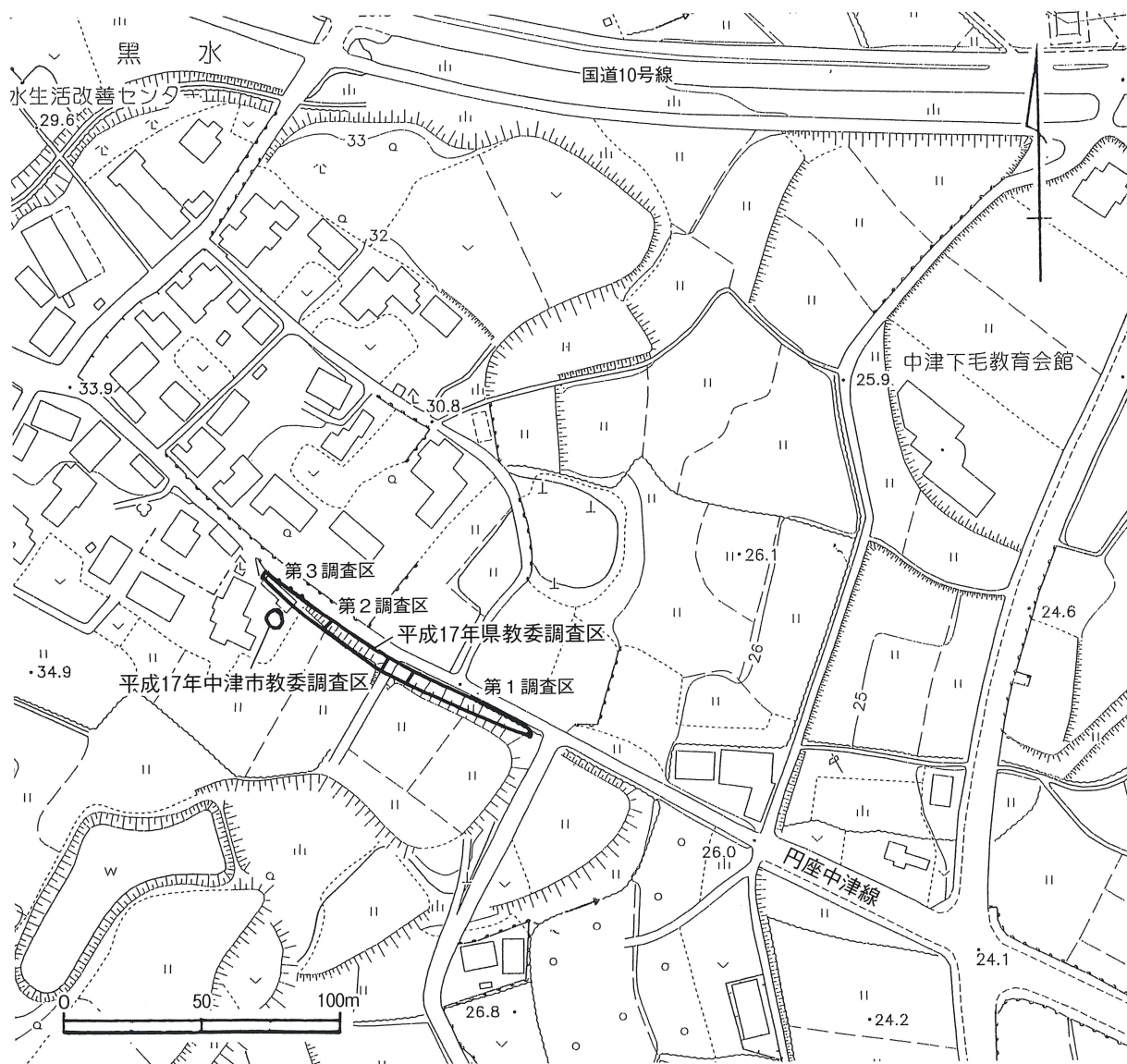
### 第3章 調査の成果

黒水遺跡拝香地区は現円座中津線の道路南側の拡幅部に沿って調査区を設定した。調査区は地表面で標高約34.7mであり、幅約5m×長さ約100m、面積は約500㎡に相当する。調査区の設定は、現県道の通行に配慮しつつ、地形の形状を考慮して大きく3つに区分した。東から第1調査区、第2調査区、第3調査区である。(第2、3図)

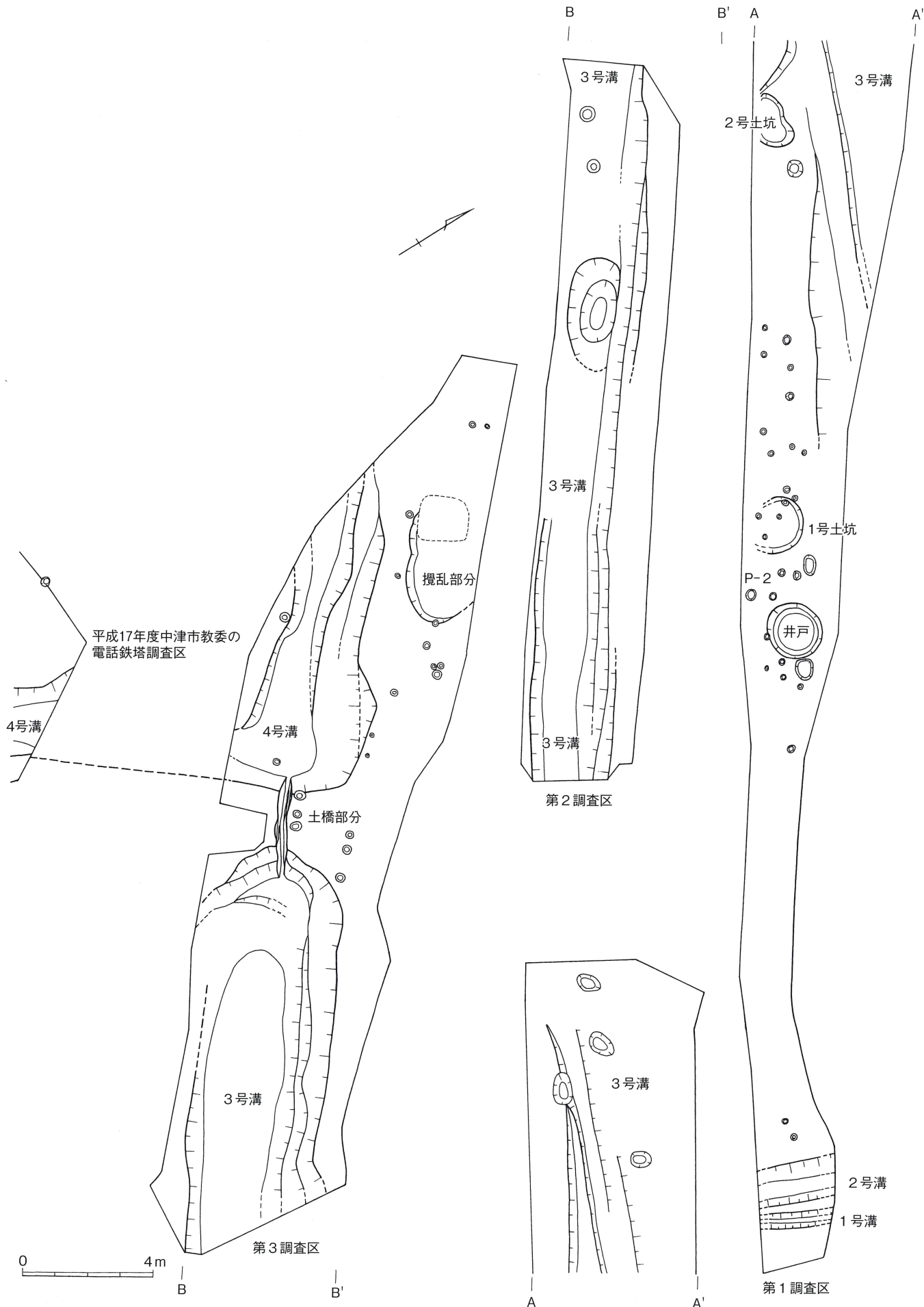
第1調査区は長さ48mの調査区である。調査区の東端に南北に延びる1号溝、2号溝、調査区の中央部で井戸1基と1号土坑、柱穴多数、調査区の西寄りで2号土坑、3号溝約22mを検出した。

第2調査区は長さ22mの調査区である。調査区内には3号溝約22+6mが確認できた。溝内には楕円形の低い部分と柱穴2本が検出されている。

第3調査区は長さ30mの調査区である。調査区内の溝状遺構は中央部で急に細く狭くなって、東側の3号溝約14mと西側の4号溝約10mの二つに別れた状態であった。この狭くなった部分は約1.7mであり土橋の可能性があることが判明している。溝の外側に柱穴が数本検出されている。

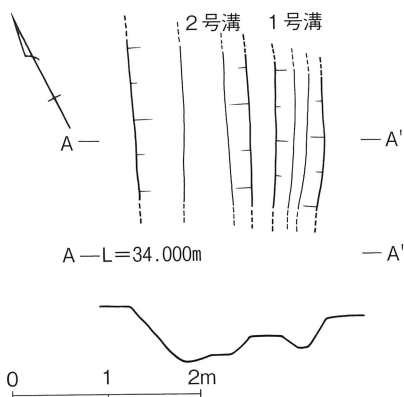


第2図 黒水遺跡拝香地区調査区配置図 (1/2,500)

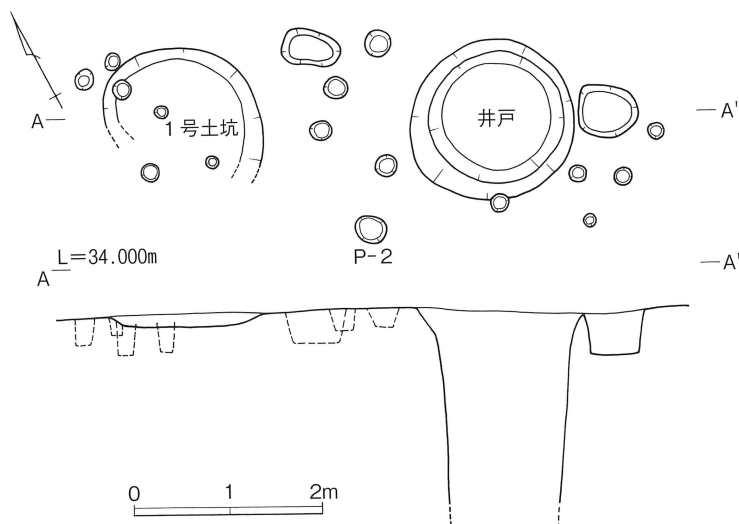


第3図 黒水遺跡拜香地区調査区 (1/160)





第4図 黒水遺跡拝香地区1号溝、2号溝実測図 (1/80)



第5図 黒水遺跡拝香地区1号土坑、井戸周辺部実測図 (1/80)

## 第1節 第1～3調査区の検出遺構

### 1号溝、2号溝 (第4図)

第1調査区の東端で南北に平行に走る溝を二条確認している。1号溝は地表下約60cmの確認面で標高33.3m、溝の最大幅は約0.5m、底面の幅は約0.2mで、確認面から底面までの深さは約20cmである。溝の断面は「V」字溝を呈し、底面の標高は33.1mである。

2号溝は地表下約1mの確認面で標高33.5m、溝の最大幅は約1.2m、底面の幅は約0.5mで、確認面から底面までの深さは約55～70cmである。溝の断面は緩い「U」字溝を呈し、底面はやや東寄りで標高は32.950mである。

### 井戸 (第5図)

第1調査区の中央部で確認面の直径約1.7mの円形の井戸を検出した。約2mの深さで直径1.2mとなるが、崩落の危険性があるので途中で発掘を保留した。

### 1号土坑 (第5図)

井戸の西側約1.2mで長径1.9m、短径1.5m、深さ約3～5cmの楕円状土坑を確認した。土坑内やその周辺には柱穴が検出されているが、関連性がつかめない。用途不明である。

### 2号土坑 (第6図)

第1調査区の西寄りで長径1.6m、短径1mで深さ約50cmの楕円状土坑を確認した。用途不明である。

### 3号溝、4号溝と土橋 (第7図)

第1～3調査区で3号溝を検出している。確認した長さは約64mである。3つの調査区の中央部に沿って幅広く遺存するため、溝幅の規模は測定できない。第3調査区で部分的に行った測定では、3号溝は地表下約1mの確認面で標高33.7～33.8mで、溝の最大幅は約4m、底面の幅は平均約2m前後であり、確認面から底面までの深さは約60～70cmである。溝の断面は緩い皿状を呈し、底面の標高は33.1mである。

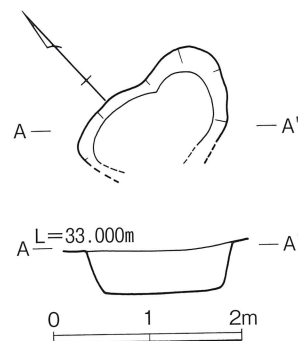
3号溝は第3調査区の中央部で丸味を持って終り、約1.7mの間隔を空けて、丸みを持つ4号溝となり西方に延びていた。確認した長さは約10mである。

二つの溝は、底面で長さ3mの細い「V」字溝で繋がっており、この上部は幅1.7mの土橋であると推察された。「V」字溝の平均幅は約30cm、確認面から底面までは約30cmで、底幅は約10cmである。ちなみに、土橋の西側の4号溝底は東側の3号溝底より約10cm程度高い。

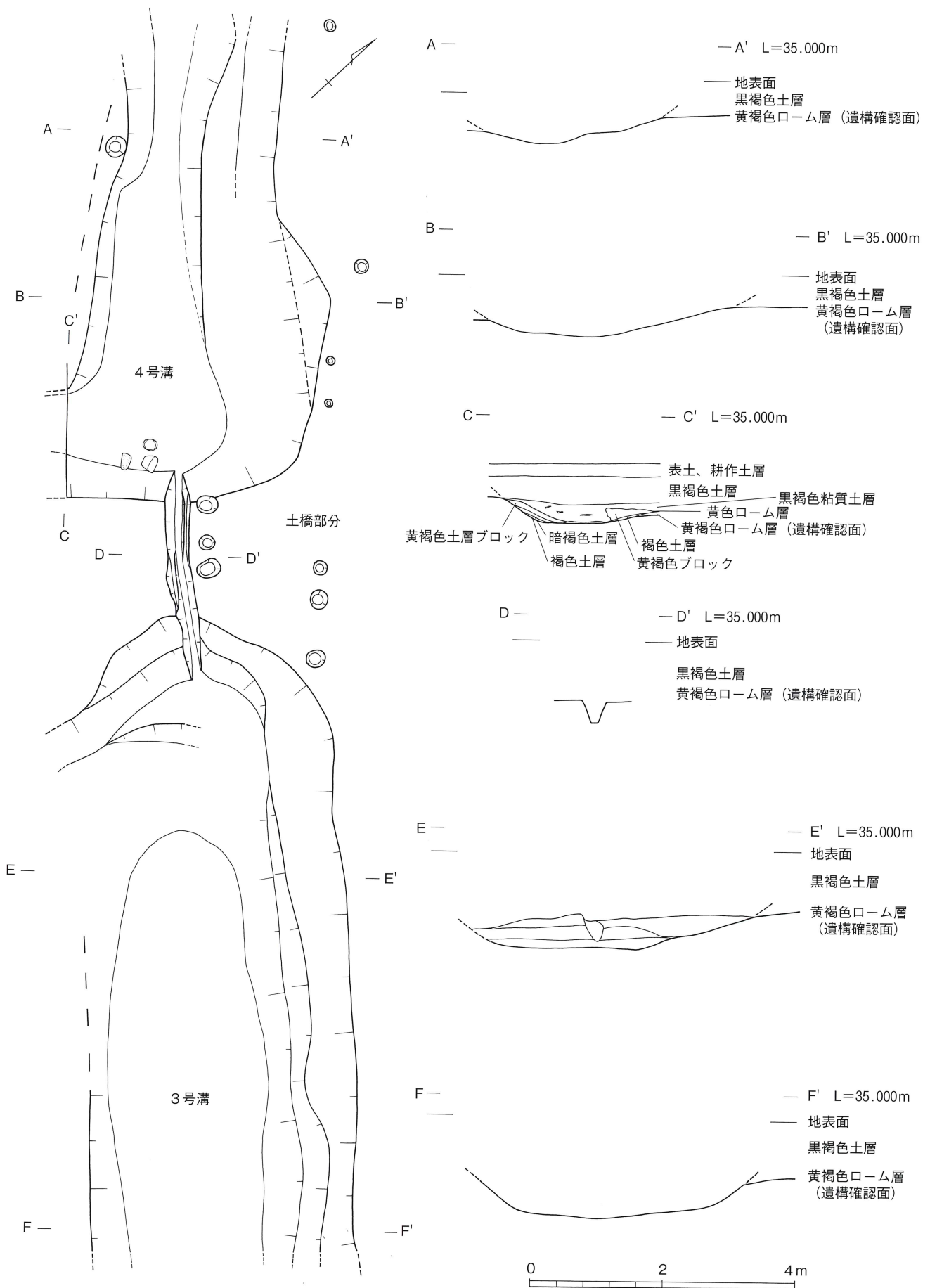
土橋より東側の3号溝は約64m以上も東に直線的に延びる遺構であることが確認できた。一方、西側の4号溝は西へ約10mしか確認できていないが、土橋に突き当たって直角に屈折し、南方へ延びていることが、中津市教育委員会の調査成果との照合で検証された。

## 第2節 第1～3調査区の出土遺物 (第8図)

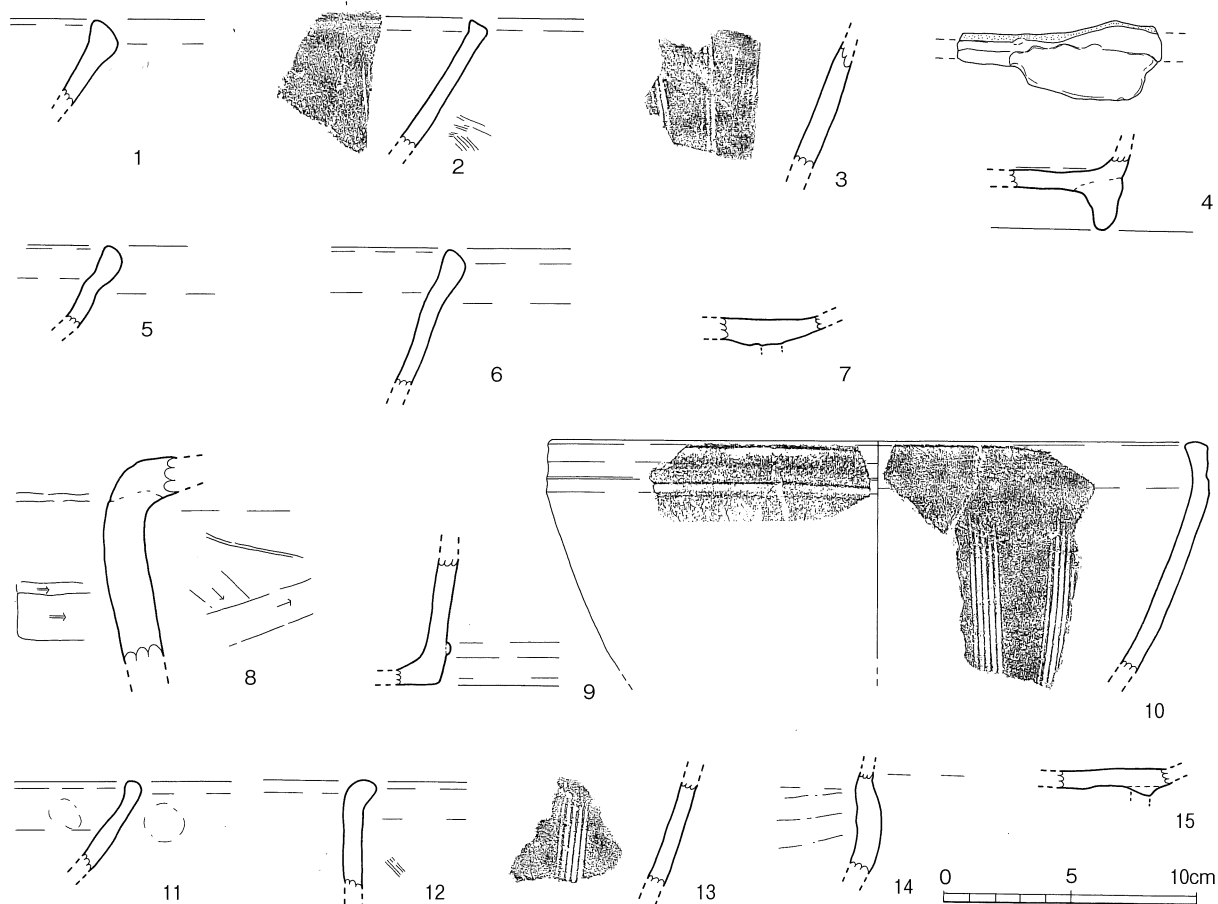
第1調査区から1～4の出土遺物が検出されている。1は瓦質土器の鉢である。口縁部が内外方向へと肥厚し丸みを持つ。表面には煤が付着している。2、3は瓦質土器の播鉢である。2の口縁部は内方向に張り出し、端部は



第6図 黒水遺跡拝香地区2号土坑実測図(1/80)



第7図 黒水遺跡拝香地区3号溝、4号溝実測図 (1/80)



第8図 黒水遺跡拝香地区出土遺物実測図 (1/3)

方形に仕上げる。4は火鉢の底部である。何箇所かに脚部を設けている。

第2、3調査区から5～9の出土遺物が検出されている。5、6は瓦質土器の鍋の口縁部である。心持ち外反し、口唇をやや肥厚させる。7は高台付の底部片。8は器壁の厚い甕の頸部である。9は火鉢の底部である。一条の突帯が廻っている。10は第1調査区のP-2より出土した播鉢である。口縁部はやや内湾し、口径26cmである。口縁外面には横撫での凹線が施文されている。11～15は第1調査区の井戸覆土より出土した遺物である。瓦質土器の鍋や鉢である。13は播鉢。7は高台付の底部片である。

## 第4章 総括

黒水遺跡拝香地区の発掘調査は5m×100mの範囲で実施された。その結果、遺構や遺物の量は少なかったが、溝状遺構、楕円状土坑、井戸、柱穴などが検出されている。これ等は中世の16世紀代の所産であった。中でも、調査区の全面で検出された3号、4号溝は東西に延び、確認できただけでも全長74mにも及ぶものであった。3号溝は約64m、4号溝は約10mを確認している。両方の溝は約1.7mの間隔を空けて独立しているが、両方の溝は細い暗渠で結ばれていた。つまり、約1.7mの土橋によって、西側の4号溝と東側の3号溝は各々独立した居館の北側を画するものと推察できた。土橋は3号溝によって囲まれた居館の北西の入り口となろう。

ところで、黒水遺跡拝香地区の第3調査区の隣接部では、平成17年10月～平成17年11月にかけてNTTドコモの無線基地局建設に伴う発掘調査が中津市教育委員会で行われている。中津市教育委員会が実施した63㎡の発掘調査成果では南北の溝状遺構が検出されていたが、この溝は今回検出した土橋の西側の4号溝と直角に繋がっていることが判明した。これによって、東西に走る4号溝は土橋の手前で、南の方向に直角に曲がる館の北東部の区画溝であることが判明した。土橋の下の暗渠は4号溝から3号溝への排水用であると推察できる。地形的な条件から推察すると、この一帯の丘陵上には溝状遺構を共有した幾つかの館が存在していることが推察できるのである。

この付近は地元で「正源寺」や「しゅうげんじ」と呼ばれており、寺や居館の一角の可能性は高い。4号溝の西方の延長線上には土塁の残影を思わせる山林が带状に残っており今後留意される。



第3調査区3号溝（東から）



第3調査区4号溝（西から）



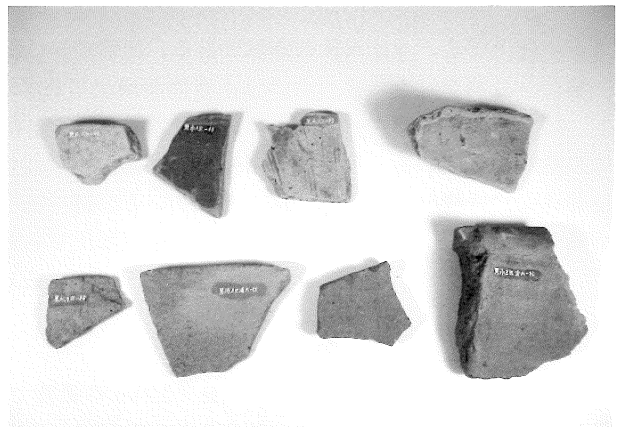
第3調査区土橋暗渠（東から）



第1調査区井戸（南から）



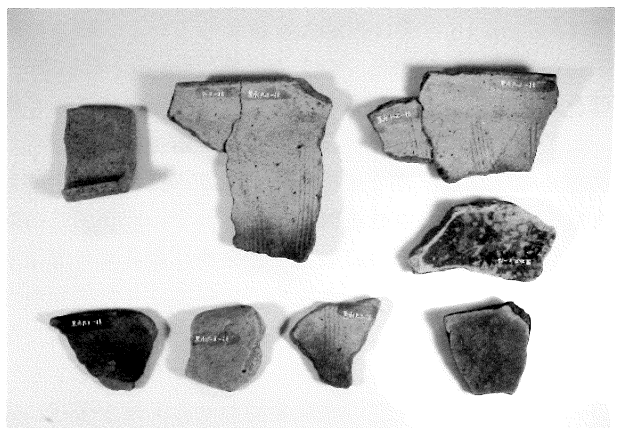
黒水拝香第1～3調査区出土遺物（表）



黒水拝香第1～3調査区出土遺物（裏）



黒水拝香 p-2、井戸出土遺物（表）



黒水拝香 p-2、井戸出土遺物（裏）

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	くろうずいせき はいこうちく
書名	黒水遺跡 拝香地区
副書名	- 県道円座中津線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -
巻次	
シリーズ名	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第34集
編著者名	栗田勝弘
編集機関	大分県教育庁埋蔵文化財センター
所在地	〒870-1113 大分県大分市大字中判田1977番地 TEL 097-597-5675
発行年月日	2008年3月25日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
黒水遺跡拝香 地 区	中津市大字加来	44203	101071	33° 33' 1"	131° 12' 35"	200501109 ~ 2005012610	500	県道円座 中津線道 路改良工 事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒水遺跡拝香 地 区	中世の居 館跡	中世	溝状遺構、井戸、 柱穴、土坑	瓦質土器	溝と溝を繋ぐ土橋

要 約	中世の居館跡の北側を画する溝を検出した。溝は居館を囲んで方形に廻っている様子であるが、居館の北側の溝は隣接する居館と共有しており、溝は土橋の下の暗渠によって繋がっていた。
-----	---



---

---

# 黒水遺跡拝香地区

－県道円座中津線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書 第34集

平成20（2008）年3月25日

編集・発行 大分県教育庁埋蔵文化財センター  
〒870-1113  
大分市大字中判田1977番地  
TEL（097）597-5675  
印刷 佐伯印刷株式会社  
〒870-0844  
大分市古国府1155-1  
TEL（097）543-1211

---

---